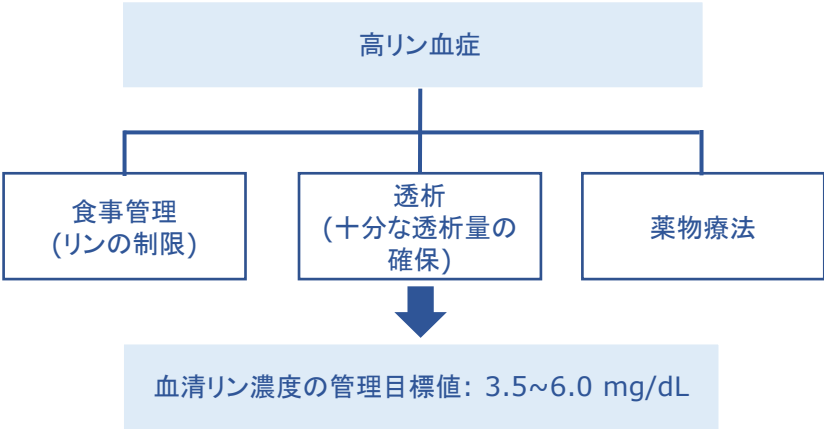


# 透析中の慢性腎臓病患者における高リン血症

- ・日本透析医学会の調査によると、透析を実施している患者数は2022年末時点で347,474例とされている。またその死因として、心不全、脳血管障害、心筋梗塞といった心血管死が29.6%を占めている。
- ・腎臓の機能の低下により生じるミネラル代謝異常は、骨や副甲状腺の異常のみならず、血管の石灰化等を介して、生命予後に大きな影響を与えることが知られている。慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン(2012)によると、予後への影響度の観点から、血清リン濃度、血清補正カルシウム濃度、血清副甲状腺ホルモン濃度の順に優先して管理することが推奨されており、血清リン濃度の管理目標値としては3.5~6.0 mg/dLが設定されている。
- ・高リン血症が認められた場合、食事管理、透析による除去、そして薬物療法が行われる。治療に用いられるリン吸着薬には下表の6種があり、消化管の中で食物に含まれるリンと結合し、吸収を抑制することで血清リン濃度を低下させる。
- ・テナパノル(フォゼベル)は、腸管のリン透過性を低下させることでリンの吸収を低減させる薬剤であり、既存のリン吸着薬とともに透析患者における高リン血症の治療に用いられる。

図：高リン血症の治療の概略



表：リン吸着薬の種類

| カテゴリー    |            | 一般名             |
|----------|------------|-----------------|
| カルシウム含有  | 金属塩(カルシウム) | 沈降炭酸カルシウム       |
|          | 金属塩(ランタン)  | 炭酸ランタン          |
|          | 金属塩(鉄)     | クエン酸第二鉄         |
| カルシウム非含有 |            | スクロオキシ水酸化鉄      |
|          | ポリマー       | セベラマー<br>ビキサロマー |